

## 第22回 嶺南地域流域検討会

～ 北川水系河川整備(県管理区間)について ～

- ◆住民説明会(8月)開催報告
- ◆費用対効果について

平成21年3月19日

## 住民説明会の開催報告について

## 住民説明会の開催報告について

### ■住民説明会開催概要

開催地	小浜市	若狭町
日程	平成20年8月19日(火)	平成20年8月18日(月)
開催場所	小浜市働く婦人の家	若狭町歴史文化館 (上中公民館)
参加人数	49名	35名

### ■住民説明会での説明内容

- 1 河川整備計画策定の背景と経緯について
- 2 北川水系河川整備計画(県管理区間)(原案)について



3

## 住民説明会にて出された質問・意見 1

【若狭町会場】

- 整備が完了している河川において、例えば鳥羽川などは治水安全度評価が1/5以下となっているのはなぜか？

[回答] 改修当時は10～30年確率規模を目標に整備されてきましたが、近年の短時間降雨の増加を考慮した現時点の評価では安全度が小さくなっています。しかしながら、改修後は河川の氾濫による浸水被害が発生していないことから改修事業による一定の効果が見込めるものと判断しています。

- 河内川ダム貯水池の表面と下の方ではどれくらい水温差があるのか？ またそれによる環境への影響は？

[回答] 表面と下の方では十数度の水温差が発生すると想定されます。放流にあたっては貯水池の任意の場所から取水する選択取水設備を設け、下流域の環境への影響が少なくなるよう配慮します。

4

## 住民説明会にて出された質問・意見 2

【小浜市会場】

- 江古川の整備については「輪中堤案」ではなく、将来的に安心できる「水門+ポンプ案」を計画として欲しい。

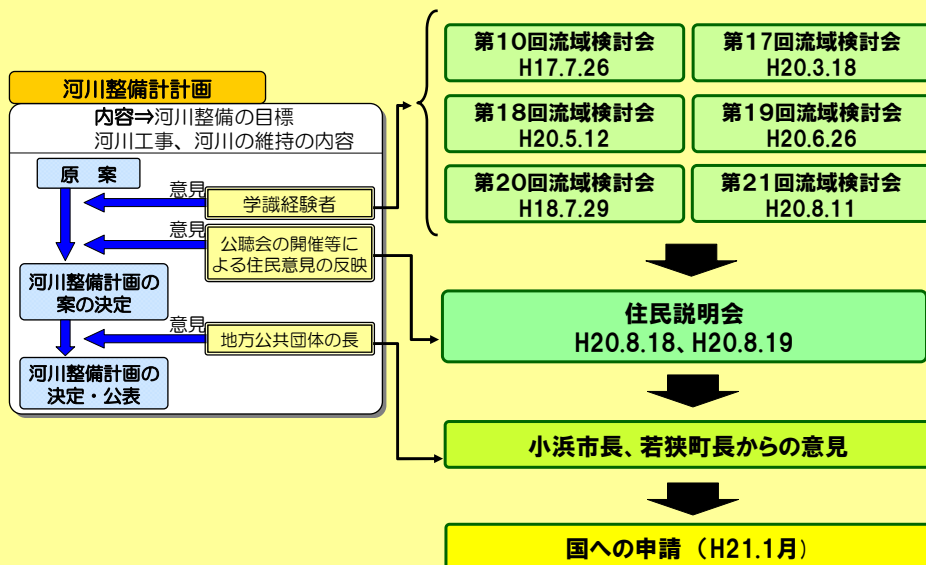
[回答]「水門+ポンプ案」はかかる費用が膨大になること、またポンプによる排水で、直下流域の市街地の危険性が增大するなどの問題があり慎重な検討が必要です。当面は、家屋の浸水被害を防御するために比較的小規模・安価で対応可能な輪中堤案での整備を図りたい。

- 国と県の両者が、それぞれの計画をすり合わせて計画を作ることが必要。

[回答]県管理区間の整備計画策定においては国管理区間との調整を図り、また国管理区間の整備計画策定においては国の委員会に県が参加するなど、相互に調整を図った計画になるよう努めています。

5

## 北川水系河川整備計画(県管理区間)の進捗状況



6

## 河内川ダムの費用対効果について

7

### 費用対効果の基本的な考え

B 総 便 益

=

C 総 費 用

- ・ 浸水被害の軽減（治水便益）
- ・ 河川環境の改善（不特定便益）
- ・ 既得利水の安定供給（不特定便益）
- ・ 人命等の人的被害の軽減
- ・ 交通途絶に伴う波及被害の軽減
- ・ ライフライン切断による波及被害の軽減
- ・ 被災の可能性に対する不安の軽減

評価が困難

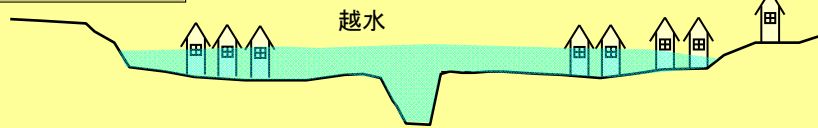
=

- ・ 事業費
- ・ 維持管理費

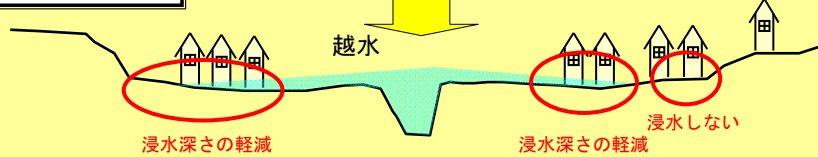
8

## 治水便益

ダム完成前



ダム完成後



ダムが完成した場合、被害が軽減される

9

## 不特定便益

不特定補給施設等を建設した場合には、

- ・河川環境の改善
- ・既得利水(農業、水道)の安定供給

等の改善効果が見込まれる。

便益の定量化が困難

不特定補給施設の建設費を効果と見なして、便益とする。

考え方は「建設省 河川砂防技術基準(案)同解説 計画編 H9」、「多目的ダムの建設 計画・行政編 S62」に基づく。

10

## 費用便益分析結果

$$\frac{B}{C} = \frac{\text{総 便 益}}{\text{総 費 用}}$$

$$= \frac{471.2 \text{ 億円}}{418.3 \text{ 億円}}$$

$$= 1.1$$

コストに対し、  
+53億円の便益

➔ 更なるコスト縮減を図っていく

11

終